JSTプレプリントサーバのご紹介

Jxiv

[ジェイカイブ]

情報基盤事業部

科学技術振興機構

目次

1. プレプリントサーバの概要と
日本のプレプリントサーバの必要性

2. Jxiv [ジェイカイブ] について
概要・特徴
活用方法
今後の展望

3. プレプリントサーバとジャーナル
即時OA化の動き
ジャーナルの対応

1. プレプリントサーバの概要と
日本のプレプリントサーバの必要性

2. Jxiv [ジェイカイブ] について
概要・特徴
活用方法
今後の展望

3. プレプリントサーバとジャーナル
即時OA化の動き
ジャーナルの対応

プレプリントとは

・論文の査読前の原稿

プレプリントサーバとは

・プレプリントを無料で公開するサーバ

プレプリントを公開する目的

・最新の研究論文をコミュニティに迅速に流通させ、オープンに議論する

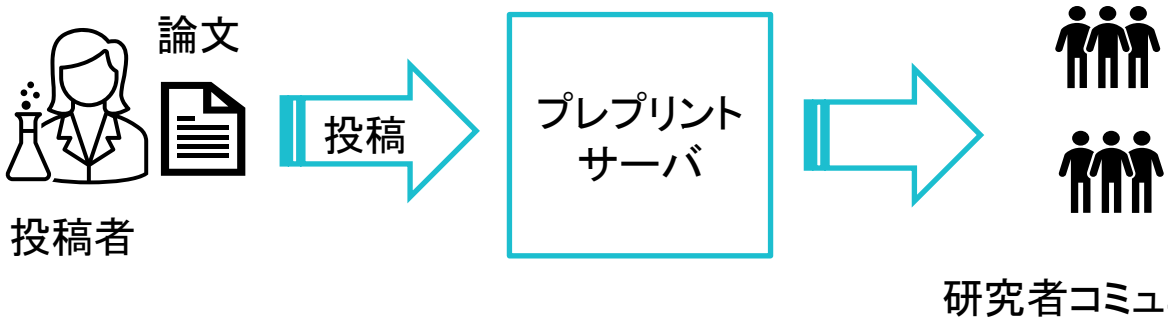
・いち早く自分の研究成果を公表し、先取権を得る

プレプリントサーバでの公開フロー

査読付き学術誌（ジャーナル）からの出版・公開

プレプリントサーバからの公開

論文をジャーナルへ投稿する前、あるいは投稿と同時にプレプリントを公開する



数日で研究コミュニティへ

※閲覧時には査読前であることの留意が必要

プレプリントサーバの例

●さまざまな分野

物理学：arXiv（1991-）　　生命科学：bioRxiv（2013-）

化学：ChemRxiv（2017-）　　医学：medRxiv（2019-）

社会科学：SSRN（1994-）

●さまざまな地域

中国： ChinaXiv（2016-）

インドネシア： RINarxiv（前身：INArxiv:2018-）

ブラジル、アルゼンチンなど： SciELO Preprints（2020-）

COVID-19を契機に急増するプレプリント

医学系プレプリントサーバmedRxiv での
コロナ関連論文数の推移

(2020年1月1日～4月17日)

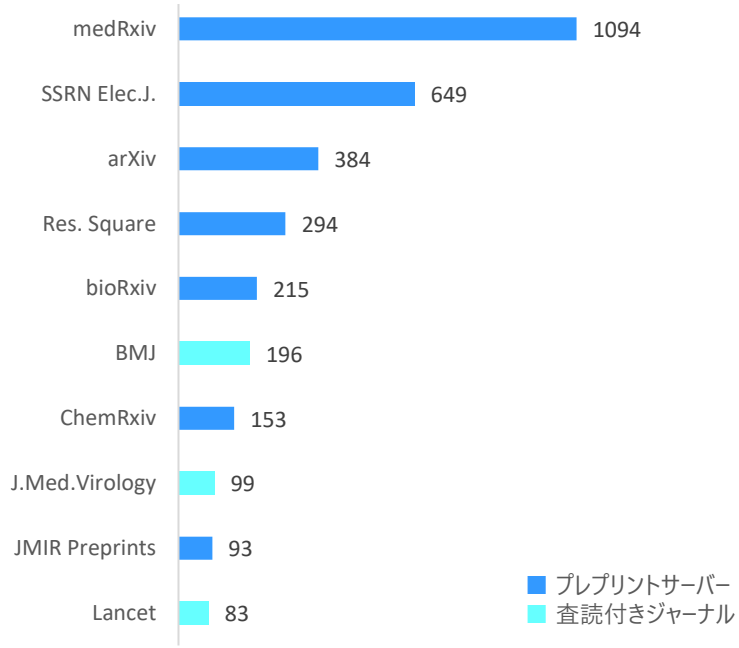
https://www.medrxiv.org/

出典：+Evidence Vol.2 No.18 (No. 69) April 2020

論文データベースDimensionsでの
コロナ関連論文数上位サイト(2020年4月21日時点)

https://www.dimensions.ai/

出典：+Evidence Vol.2 No.18 (No. 69) April 2020



コロナ関連論文は上位10サイト中7サイト
がプレプリントサーバ

プレプリントサーバによる研究成果の早期公開

日本のプレプリントサーバの必要性

- COVID-19等でプレプリントサーバを利用した研究成果の発表、早期の活用が進められ、威力を発揮していたが、日本語で投稿できるプレプリントサーバは現状なかった。

- arXiv等、分野別プレプリントサーバはあるが、海外でも確立されていない分野がある（学際分野等）。
  「人文学や社会科学分野では、特定の文化の哲学、歴史、文学、社会、法律、経済等に特化した研究が多いこともあり、当該地域の言語で出版することにより、さらに深い理解と知識の共有が可能となります。」（出典：筑波大学　F1000との連携プレス）

- 研究分野別プレプリントサーバのみならず、言語・地域別のプレプリントサーバも各国から立ち上がる現況において、我が国に拠点を置くプレプリントサーバはなく、海外から出遅れてしまっていた。

我が国における基本政策

第6期科学技術・イノベーション基本計画

第２章　Society 5.0の実現に向けた科学技術・イノベーション政策

２．知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化

（1）多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築

（2）新たな研究システムの構築（オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進）

現状認識

（1）・我が国の研究力は、諸外国と比較して相対的・長期的に地位が低下
・研究者の研究時間の減少など、研究者の環境改善は大きな課題

（2）・データ駆動型研究の拡大など、世界的に研究活動のDXの流れが加速
・世界的な知の共有を目指した研究成果のオープン化が進む
・世界的な出版社やIT企業が研究成果やデータを囲い込む動き

具体的な取組

（1）④基礎研究・学術研究の振興
・researchmap等を活用しつつ研究者に関する多様な情報を把握・解析

⑧競争的研究費制度の一体的改革
・各種事務手続に係るルールの一本化、簡素化・デジタル化・迅速化を図る

（2）②研究DXを支えるインフラ整備と高付加価値な研究の加速
・プレプリントを含む文献など、研究成果に係る情報を広く利用できる環境の整備を推進

2022年3月より運用

1. プレプリントサーバの概要と
日本のプレプリントサーバの必要性

2. Jxiv [ジェイカイブ] について
概要・特徴
活用方法
今後の展望

3. プレプリントサーバとジャーナル
即時OA化の動き
ジャーナルの対応

Jxiv機能概要

- 全ての論文にDOIを付与
- オープンアクセスで公開
- CCライセンス表示
- 最低限のスクリーニング後に公開
- 改版可能
- 付随データ公開可能
- 出版版論文へのリンク付け可能
- 投稿するにはアカウントが必要
  （アカウント取得にはresearchmapまたはORCID認証必要）
- 閲覧はアカウント不要で誰でも可能
- アクセス統計を表示
- 日本語・英語のインターフェイス切り替え可能

- Google Scholarとの連携
- iThenticateと連携

今後学術データベースなどとの連携を拡大する予定

Jxivが受け付けている論文

- 言語：日本語 or 英語
- 分野：全て（学際分野を含む）

- 論文種別

○

論文の体裁をなしているもの

例）
・原著論文
・総説（レビュー）論文
・解説論文
・・・

×

・他のプレプリントサーバに投稿、公開している論文
・ジャーナルの査読コメントを反映した論文※
・法的問題、倫理的問題、剽窃を含むもの
・宣伝広告等
・投稿規約の要件を満たさないもの

※投稿者がジャーナルから許可を取れば可能になるように、投稿規約改定準備中。

Jxivに投稿するメリット

○オープンアクセス(OA)で公開できる

- 全ての論文をOAで公開する。
- CCライセンスは投稿者が選択できる。

○日本からの閲覧が多い

災害や緊急時のようなジャーナルを待てないときに特集号を組んで論文を公開できる
例）南海トラフ巨大地震関連特集号

日本の読者に知って欲しい論文の公開に適している

日本語で発表することに意味がある論文を公開できる

○政府出資のサーバ

安定して運用される

即時OA化の動向

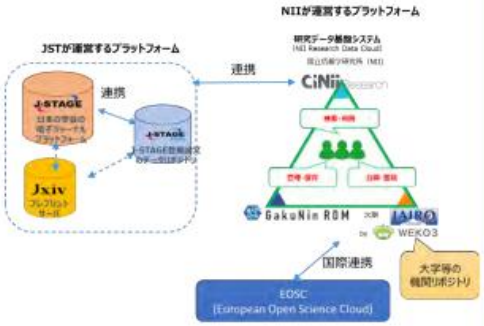
世界的な学術出版社による研究成果の市場支配への対応の方向性　案

【基本方針】
- 価値観を共有する国との連携（G7科学技術大臣会合：本年5月12～14日 仙台開催）
- 国レベルのオープンアクセス（OA）に関する方針を策定
  - ✓ 欧州（独・仏など）では既に対抗措置をとり、OSTP（米国大統領府科学技術政策局）も昨年8月にオープンアクセス方針を公開し、我が国でもCSTIにおける集中的な検討を開始（昨年11月より）

公的資金による研究成果の速やかな国民への還元
・地球規模課題（感染症、災害等）への貢献

2025年度新規公募分から、学術論文等の即時オープンアクセス＜検討中＞

【具体的施策】
1. 公的な研究成果プラットフォーム（NII・JST）の充実。公的資金による学術論文の著者最終稿（バックデータ含む）の掲載の義務づけ（2025年度新規分公募より）＜グリーンOA＞
2. 掲載公開料（APC）の支援＜ゴールドOA＞
3. 学術出版社に対する交渉力の強化（国としての交渉体制の構築など）
4. 研究者や研究コミュニティの研究成果発信力の強化
5. 国際的な連携（G7等の価値観を共有する国との学術出版動向のモニタリング、政策連携など）

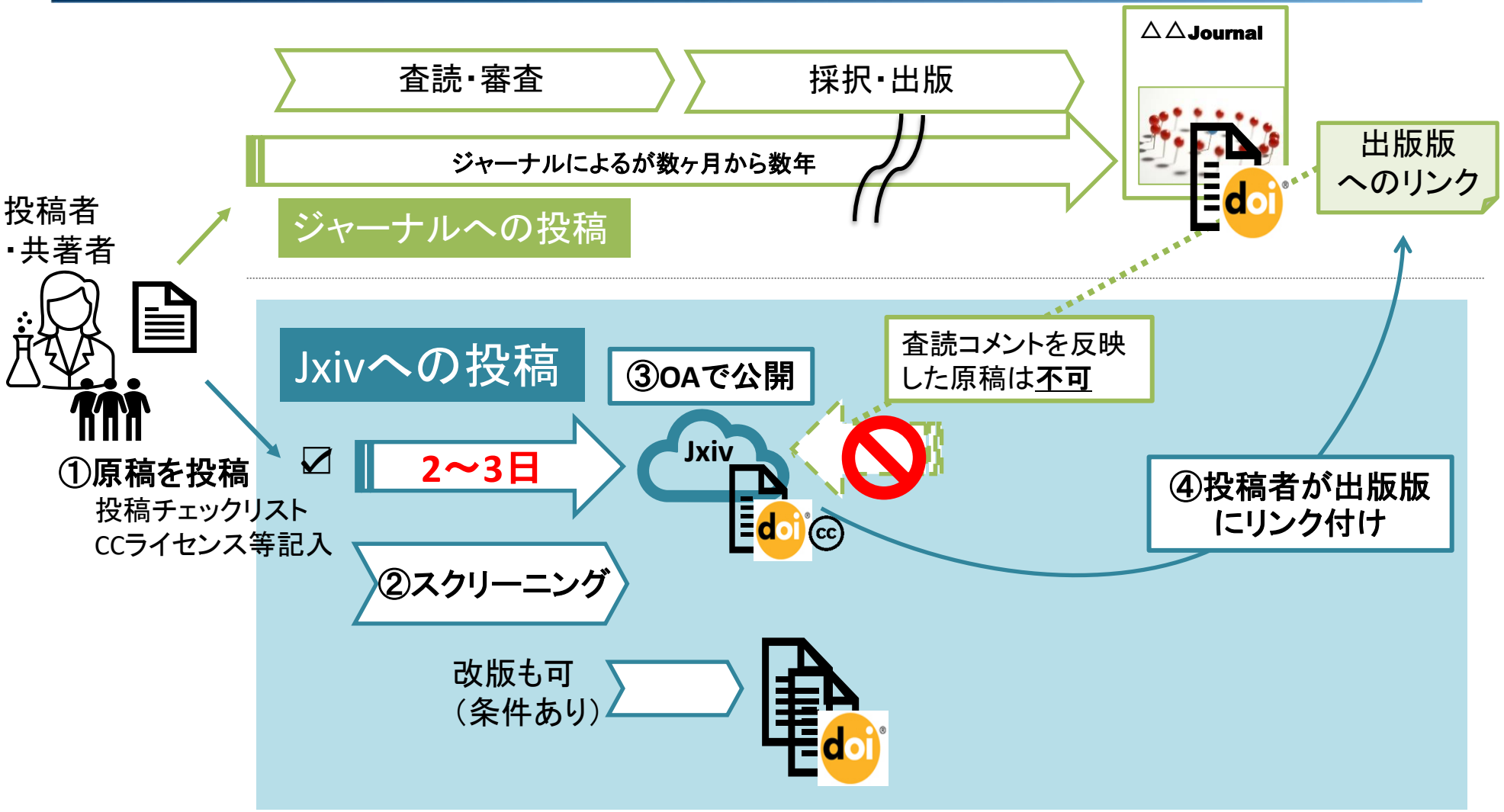


【環境整備】
1. 開かれた学術出版の市場環境の構築
2. 研究コミュニティの自律性の確保と適切な評価システムの構築

※NII：国立情報学研究所、JST：科学技術振興機構

論文等のオープンアクセスについて（論点とりまとめ）2023年5月25日 内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局
資料1スライドp5より

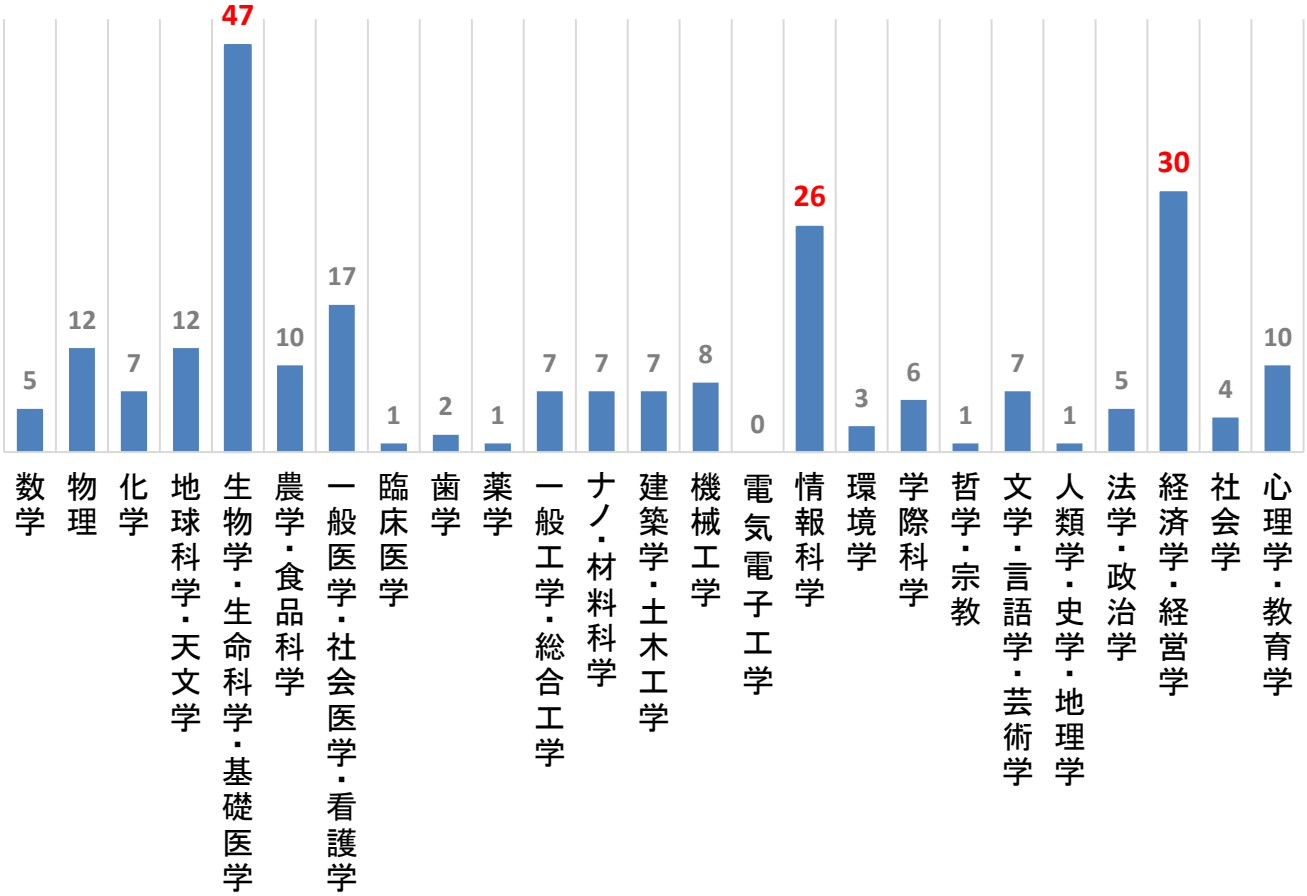
投稿から公開までの流れ



公開論文数(2023.09.10時点)

公開論文数:236本

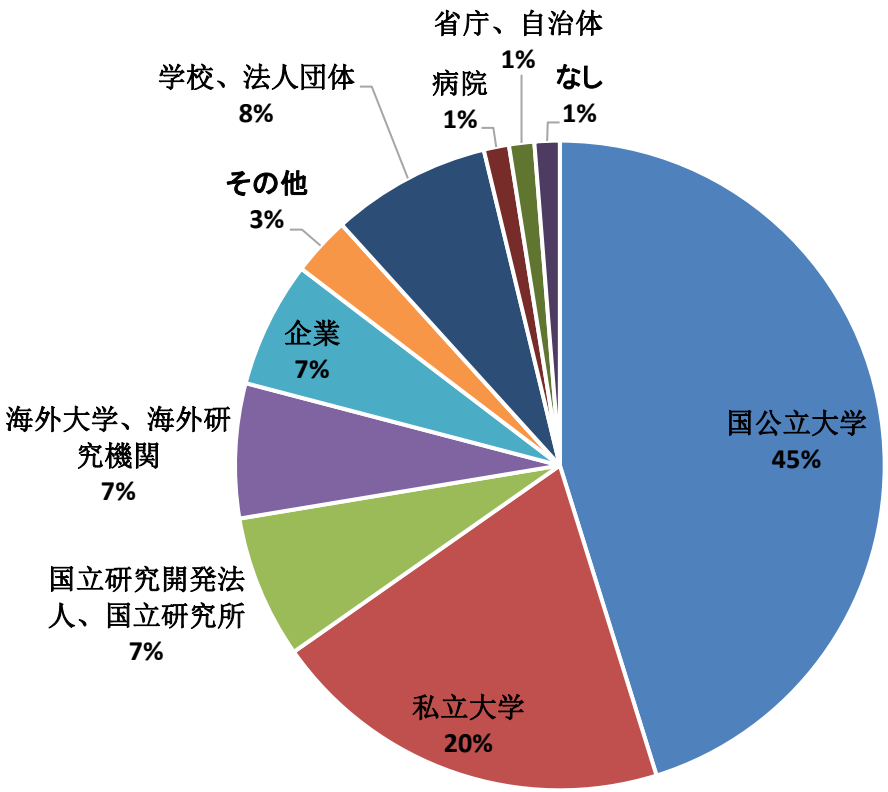
分野別論文数



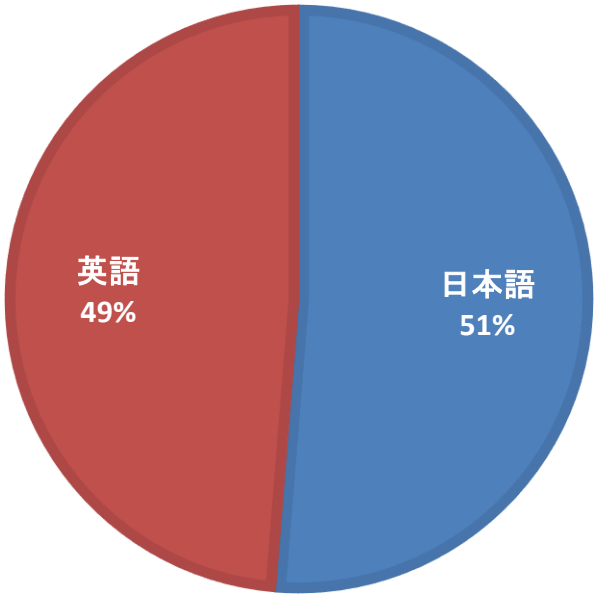
Jxivから公開されたプレプリント

投稿者所属別（2023.09.16時点）

国内機関所属：93%
海外機関所属：7%



言語別（2023.09.10時点）



アクセス統計

Jxivでは、サイトへのアクセス数（PV数）と
論文PDFアクセス数（ダウンロード数）の統計を取得している。

●サイトアクセス（PV数）について
2023年1月～8月平均　約11万PV/月

●論文PDFへのアクセス（ダウンロード数）について
最大9,200ダウンロード　(2023年1月公開～2023年9月時点）
・アクセス数上位30論文中**23本が日本語論文、29本が日本人著者**
・アクセス数上位10論文の**分野に偏りはない**

広報活動

- JSTプレスリリース時のメディア等での取り上げ：
  ITmedia NEWS、日本経済新聞、電気化学会、カレントアウェアネス・ポータル
  TECHCRUNCH JAPAN、財経新聞、Library Learning Space: Access
  EurekAleart!、AlphaGalileo、Science Business Network、BYTECHLICKS、Nature News

- JSTファンディング事業研究者向け説明会(随時)

- X(元Twitter) (随時)

- J-STAGE登載誌の発行機関向け説明会(随時)

- 科研費説明会、国語研説明会

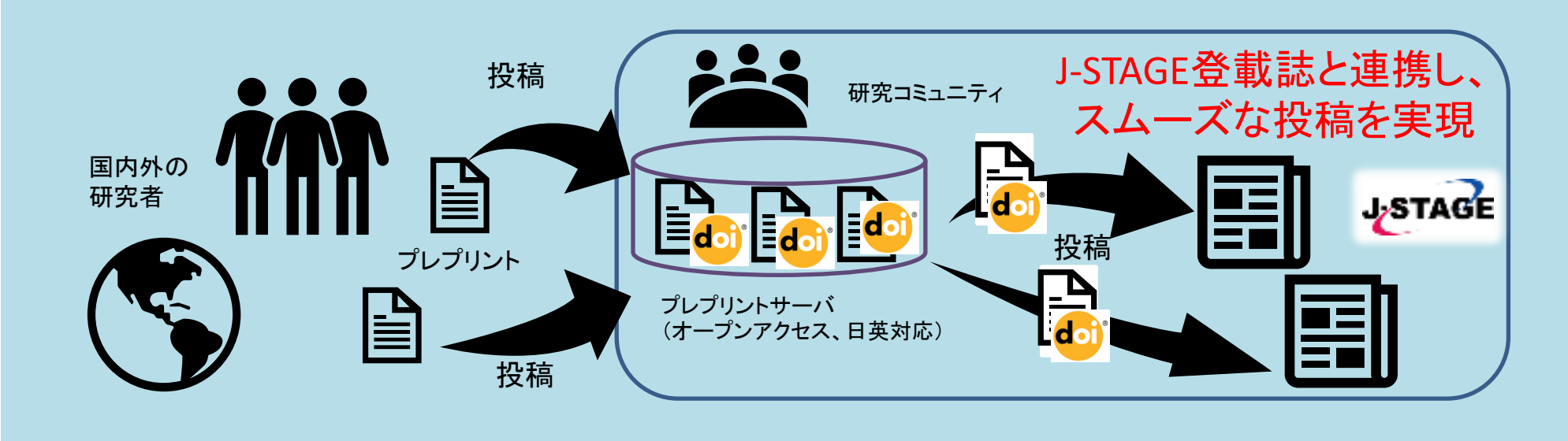
- 学会誌や大会プログラム等への広告掲載

- 情報系イベントでの説明（INFORPRO）
  オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）(予定)
  等

今後の展望

○検討中の機能拡張

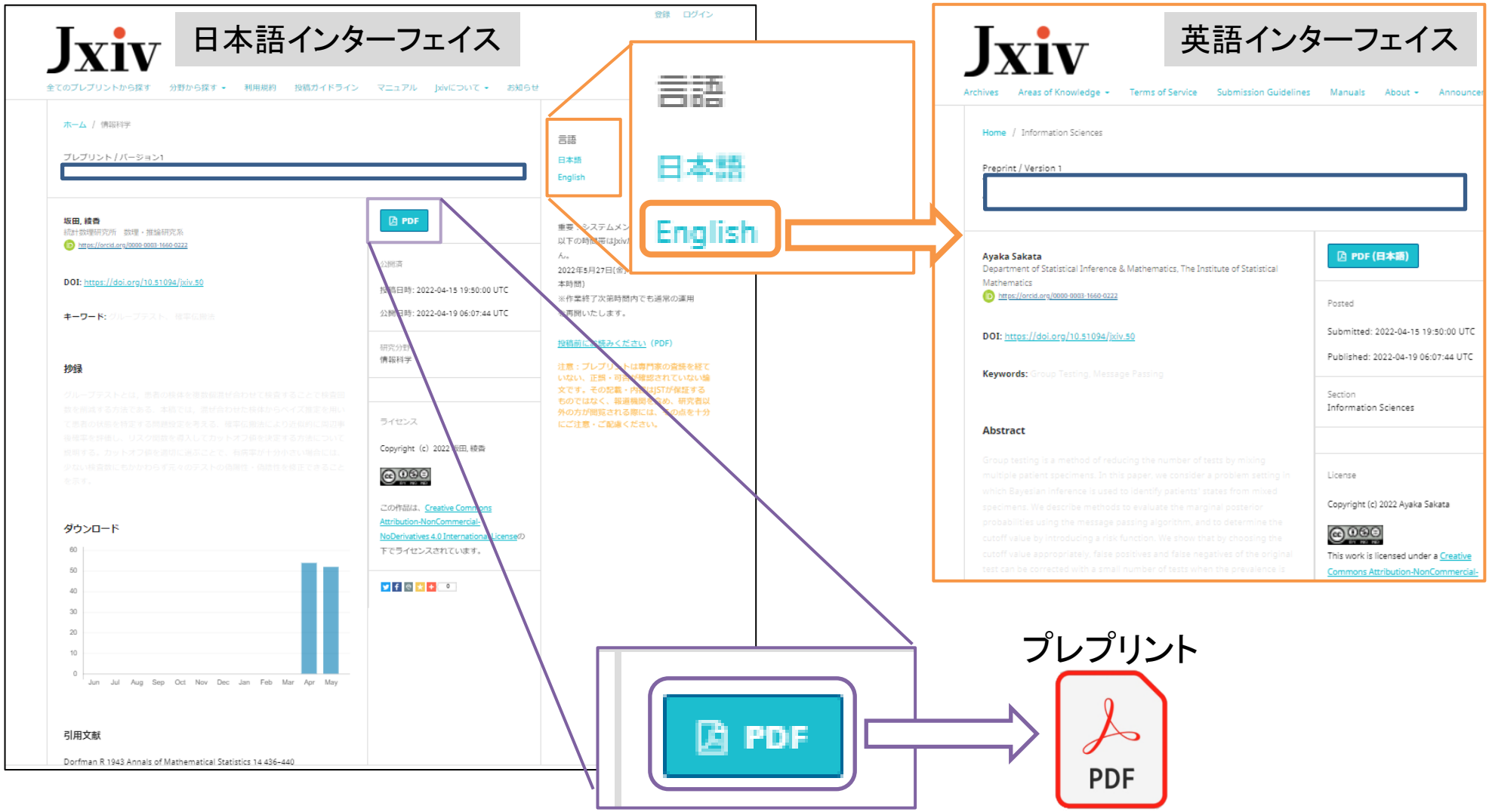
・J-STAGE投稿審査システムとの連携
　→　J-STAGE登載誌への投稿を容易に



・コメント付与機能

・検索機能改善

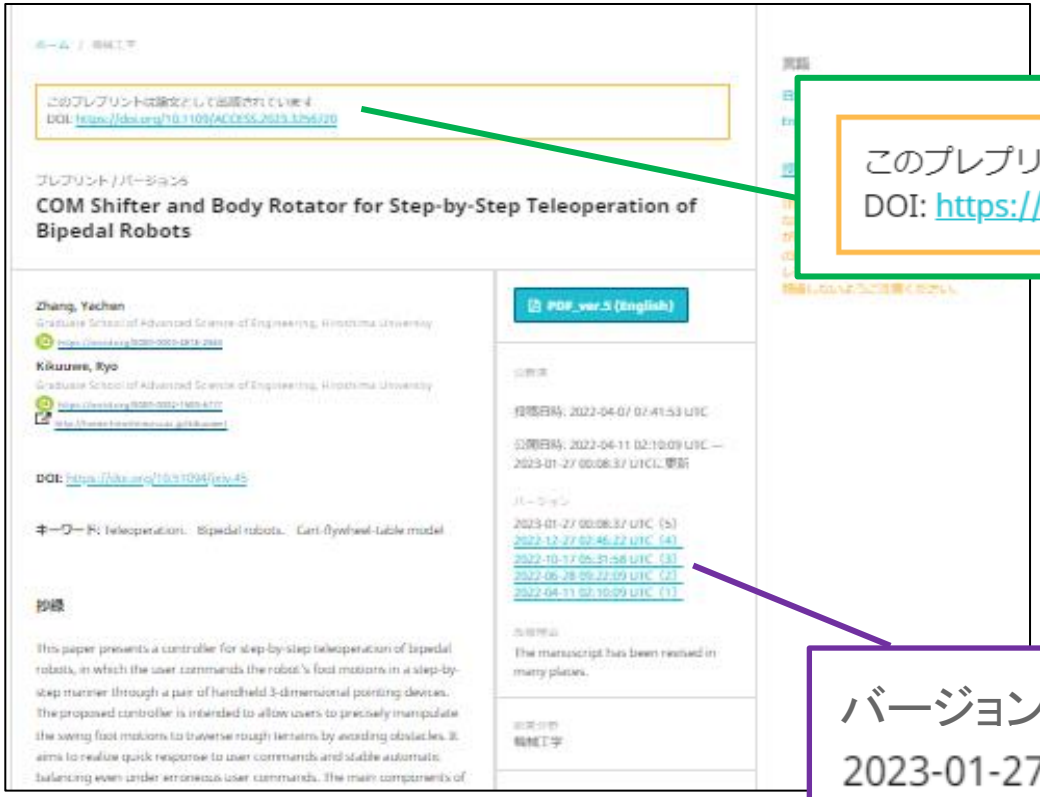
閲覧する



この画面は2023年6月時点の画面であり、実際とは多少異なる可能性があります。

（閲覧マニュアル）https://jxiv.jst.go.jp/jxiv_docs/ja/Jxiv_manual_browsing_ja.pdf

閲覧する



このプレプリントは論文として出版されています
DOI: https://doi.org/10.1109/ACCESS.2023.3256720

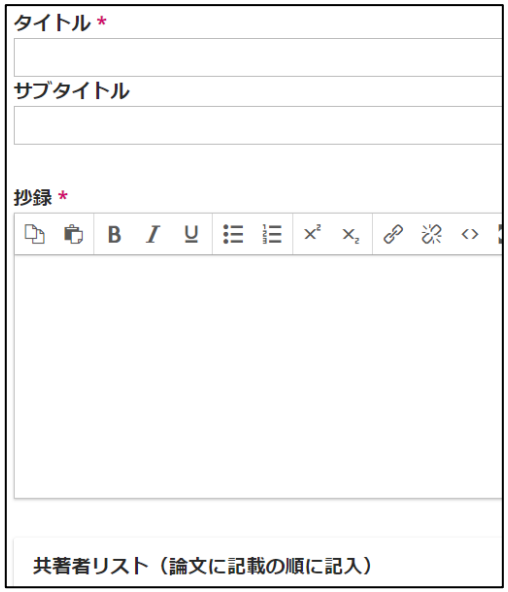
→出版版へのリンク
（著者自身が貼りつけ）

バージョン
2023-01-27 00:08:37 UTC（5）
2022-12-27 02:46:22 UTC（4）
2022-10-17 05:31:58 UTC（3）
2022-06-28 09:22:09 UTC（2）
2022-04-11 02:10:09 UTC（1）

→改版可能
前の版、改版理由も閲覧可能

https://doi.org/10.51094/jxiv.45

投稿する



原稿をアップロード
↓
サーバ管理者がチェック
↓
公開

1. プレプリントサーバの概要と
日本のプレプリントサーバの必要性

2. Jxiv [ジェイカイブ] について
概要・特徴
活用方法
今後の展望

3. プレプリントサーバとジャーナル
即時OA化の動き
ジャーナルの対応

即時OA化の動き

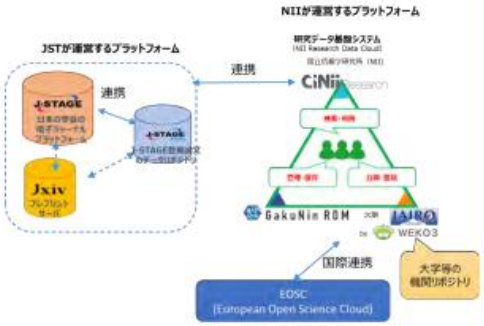
世界的な学術出版社による研究成果の市場支配への対応の方向性　案

【基本方針】
- 価値観を共有する国との連携（G7科学技術大臣会合：本年5月12～14日 仙台開催）
- 国レベルのオープンアクセス（OA）に関する方針を策定
  - ✓ 欧州（独・仏など）では既に対抗措置をとり、OSTP（米国大統領府科学技術政策局）も昨年8月にオープンアクセス方針を公開し、我が国でもCSTIにおける集中的な検討を開始（昨年11月より）

公的資金による研究成果の速やかな国民への還元
・地球規模課題（感染症、災害等）への貢献

2025年度新規公募分から、学術論文等の即時オープンアクセス＜検討中＞

【具体的施策】
1. 公的な研究成果プラットフォーム（NII・JST）の充実。公的資金による学術論文の著者最終稿（バックデータ含む）の掲載の義務づけ（2025年度新規分公募より）＜グリーンOA＞
2. 掲載公開料（APC）の支援＜ゴールドOA＞
3. 学術出版社に対する交渉力の強化（国としての交渉体制の構築など）
4. 研究者や研究コミュニティの研究成果発信力の強化
5. 国際的な連携（G7等の価値観を共有する国との学術出版動向のモニタリング、政策連携など）



【環境整備】
1. 開かれた学術出版の市場環境の構築
2. 研究コミュニティの自律性の確保と適切な評価システムの構築

※NII：国立情報学研究所、JST：科学技術振興機構

論文等のオープンアクセスについて（論点とりまとめ）2023年5月25日 内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局
資料1スライドp5より

ジャーナルの対応：ジャーナル編集部の方へ

あなたが編集に関わっているジャーナルは、プレプリントを受け付けていますか？

現状

- 世界的にプレプリントの数が増加、ジャーナルは受け入れる方向に
  →プレプリントを受け入れないと投稿が減少する可能性あり

プレプリントを受け入れる効果

- プレプリントを中心に、新たな議論の場が生まれる
- 研究分野の活性化が期待できる
- JxivからJ-STAGE登載ジャーナルとの連携を予定
  著者は、ジャーナルに論文を投稿する時間を節約できる
  J-STAGE登載誌は、プレプリントを投稿に引き込める

ジャーナルとして受け付けるか否かについて議論してください。
受け付ける旨を投稿規程に明記することをご検討ください。

プレプリント公開論文を受け付けるジャーナルリスト

プレプリントを受け入れることを
投稿規定で明記することをご検討下さい

Jxiv

全てのプレプリントから探す　分野から探す　利用規約　投稿ガイドライン　マニュアル　Jxivについて　お知らせ　検索

ホーム / お知らせ / プレプリント公開論文の投稿を受け付けるジャーナル(2023/8/8更新)

プレプリント公開論文の投稿を受け付けるジャーナル(2023/8/8更新)

2022-07-04

多くのジャーナルが研究論文の査読前原稿をジャーナル投稿前あるいは投稿と同時にプレプリントサーバに投稿することを認めています。以下は国内学会から発行されるジャーナルのうち、Jxivや他のプレプリントサーバで公開した論文の投稿を受け付けているジャーナルのリストです。（リストは随時更新します。2023/8/8現在 76誌）

本リスト掲載の有無にかかわらず、プレプリントの公開を検討される際は、投稿予定のジャーナルの投稿規程をご確認ください。

(*)Jxivへの投稿を推奨しているジャーナル

- Advanced Biomedical Engineering
- Advances in Resources Research(*)
- Allergology International

2023/9/10 時点：**76誌**
（うち投稿を推奨：**9誌**）

言語

日本語

English

投稿前にお読みください（PDF）

注意：プレプリントは査読前原稿です。すなわち、研究者による学術的な評価・検証が行われていない原稿であり、最終出版版の論文ではありません。報道機関等は、プレプリントの内容を確立された情報として報道しないようご注意ください。

ご所属学会や周囲のコミュニティにJxivを紹介したい場合は、以下のフライヤーを頒布・ご利用いただけます。

https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/Jxiv-flyer.pdf

Jxiv

アクセス・投稿をお待ちしております！

ご質問、ご意見、コメントなどは、以下宛先にお寄せください。

preprint@jst.go.jp